

藤田組 火山防災テーマにセミナー開催 富士山噴火に備えるBCCPを

藤田組(藤田社長)は9月4日、東京都中央区の日本橋倶楽部会議室で第28回企業セミナー「火山噴火に備えて・BCCP対策」富士山の噴火を想定して」を開催した。講師は竹中工務店レジリエンスソリューション推進室シニアチーフエンジニアの飯村治子氏。富士山の噴火が懸念される昨今、会場には募集人数を超える約40人が参加し満席となった。

活火山である富士山は、より大きな被害が出た。仮に富士山が噴火する江戸時代1707年の宝 降灰は最初白く、次第に 恐れがある。一方、これ永噴火から沈黙を守って 黒色へと変わり、昼間で 物・設備のダメージに加 まで火山防災をテーマに江戸の街にも火山灰が積 ったという。 も暗くなるほどの様子だ え、上下水道、交通、通 したセミナーは少なく、信、電気など各種インフ 企業のBCCP策定の面でも地震や水害に比べ対策が遅れている。その背景には、噴火による降灰の被害や対策について、明確な知見が醸成されてこ



藤田氏



飯村氏

降灰被害の想定やリスク対策解説

ラに長期間影響を及ぼす。一方、これまで火山防災をテーマにしたセミナーは少なく、企業のBCCP策定の面でも地震や水害に比べ対策が遅れている。その背景には、噴火による降灰の被害や対策について、明確な知見が醸成されてこ

なかつたことに要因がある。講師の飯村治子氏は竹中工務店に入社以来、BCP・セキュリティのコーナーでは火山災害と事業

講師の飯村治子氏は竹中工務店に入社以来、BCP・セキュリティのコーナーでは火山災害と事業

ンサルディング業務に従事してきた。竹中工務店では事業継続を脅かすリスクを対象に、施設対策に限らず、ソフト面を含めさまざまな支援を提供しており、この日のセミナーでは火山災害と事業



火山噴火をテーマにセミナー



宝永噴火のつめ跡が残る富士山

継続の必要性の観点から①ハザードの概説(火山灰・降灰)②降灰による被害想定③施設のBCCP対策④運用・オペレーションの主に4テーマについて解説した。

首都圏でも火山灰が積る可能性がある。セミナーでは噴火による影響を一度考えてもらい、BCP策定の際には噴火リスクも念頭に置いてもらいたい」とあいさつした。

講演で飯村氏は火山灰の特徴として、一般的な雪荷重に比べ乾燥時で5倍、水を含むと8倍の重さになると説明し、建物への影響を懸念した。火山灰の影響については、人への健康被害のほか、

「鹿児島島の桜島が噴火すると市内に灰が降り、住民は大変なことになる。一方、仮に富士山が噴火すると風向きによっては

企業はBCCP策定については、降灰量にもよるが、降灰エリア内の事業所の閉鎖と事業継続の2通りの考え方を示し、閉鎖する場合には施設に灰が流入しない措置を、また事業継続する場合も灰の流入を防ぎ、軽減しながら稼働させる対策方針が必要とした。具体的には閉鎖施設では設備のカバーや目貼り、稼働させる場合にはフィルタを設置し定期的な徐灰作業を行うことなどを挙げた。

富士山噴火による大規模噴火災害は発生確率が低く未知のハザードだが、特に首都圏では影響が大きく、首都直下地震などと同様の対策では乗り切れない可能性も指摘される。今後、企業では噴火リスク、降灰リスクをシナリオに入れたBCCP対策も一考の価値がある。